

佐賀県研究成果情報（2021年2月）

[情報名] 施設栽培モモにおけるクワシロカイガラムシの発消長

[要約] 施設栽培モモにおけるクワシロカイガラムシの歩行幼虫は、3～11月にかけて4回発生する。

[キーワード] 施設栽培モモ、クワシロカイガラムシ、発消長

[担当] 果樹試験場・病害虫研究担当

[連絡先] 0952-73-2275・kajushiken@pref.saga.lg.jp

[分類] 技術者参考

[部会名] 果樹

[専門] 果樹虫害

[背景・ねらい]

近年、施設栽培モモでカイガラムシ類による枝の枯死等が問題となっている。カイガラムシ類を効果的に防除するためには、ふ化直後の歩行・分散している幼虫を対象に薬剤散布を行う必要がある。そこで、施設栽培のモモにおけるクワシロカイガラムシの発消長を調査し、防除対策の資料とする。

[成果の内容]

1. 無加温（2月上旬被覆）における歩行幼虫の発生ピークは4月中旬頃、6月下旬～7月上旬頃、8月中下旬頃、10月下旬頃であり、多発生条件下では第4世代（10月下旬頃）のピークが明瞭となる（図1）。
2. 加温（1月下旬加温）における歩行幼虫の発生ピークは3月中旬頃、6月上旬頃、7月下旬～8月上旬頃、9月下旬～10月上旬頃であり、多発生条件下では第4世代（9月下旬～10月上旬頃）のピークが明瞭となる（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本結果は、2019年から2020年に多久市の現地圃場で調査を行った結果である（表1）。温度管理は現地慣行に準じており、加温開始から20日頃（開花前）までは最低8～10℃、加温開始30～60日後（開花始から満開25日後）頃までは最低12℃で管理されている。なお、加温期間中の施設内日平均気温は、無加温の場合と比較して約6度高く推移した（図3）。
2. 歩行幼虫の発消長は、成虫の寄生が確認された枝（10枝）に両面テープ（テープ幅15mm ニチバン製）を巻き付け、6～10日ごとにテープを交換し、テープ上に捕獲された歩行幼虫を計数した。
3. カイガラムシ類の密度を抑えるために第1世代からの防除が重要であるが、外気温や加温の早晚により発生時期が前後すると考えられる。そのため、本結果のふ化幼虫発生時期を目安に、両面テープトラップによりふ化幼虫の発生状況を確認し、防除を行う。

[具体的なデータ]

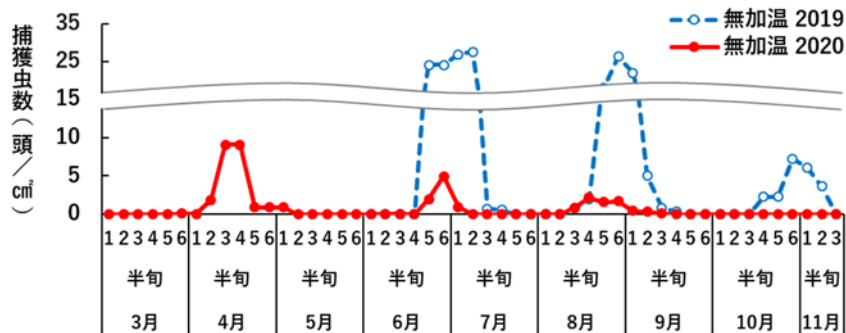


図1 無加温栽培モモにおけるクワシロカイガラムシ歩行幼虫の捕獲消長 (2019~2020年)

注) 2019年 被覆期間: 2月7日~7月13日

2020年 被覆期間: 2月7日~7月13日

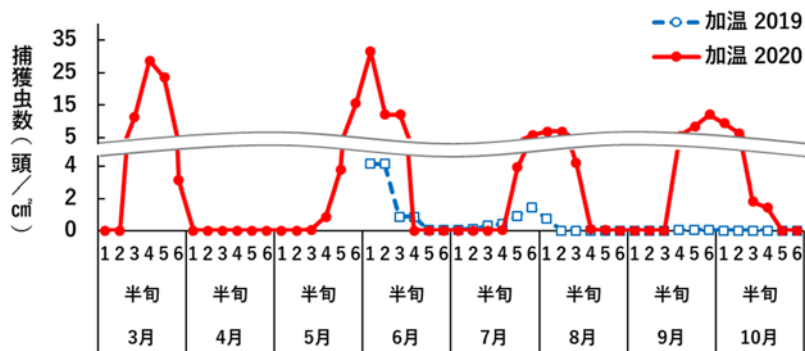


図2 加温栽培モモにおけるクワシロカイガラムシ歩行幼虫の捕獲消長 (2019~2020年)

注) 2019年 被覆期間: 1月26日~7月13日、加温期間: 1月27日~4月28日

2020年 被覆期間: 1月20日~6月30日、加温期間: 1月20日~4月28日

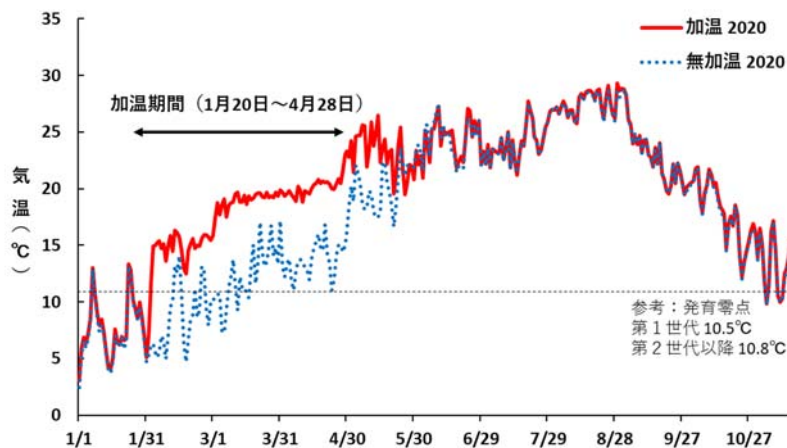


図3 日平均気温の推移

[その他]

研究課題名: 果樹における難防除および新奇病害虫の迅速な防除技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2019~2020年

研究担当者: 池田亜紀・衛藤友紀・近藤知弥